

住民に配慮した環境対策を

シムコ（養豚施設）の実態を調査

総務・経済建設両委員会は、平成16年12月20日、シムコ鶴田事業所の環境対策業務等について、シムコ鶴田事業所長及び現場責任者の出席を求め調査を実施し、委員長報告がありましたので、その概要を報告します。



悪臭防止対策として豚舎毎に脱臭装置を設置するよう検討されている

現在の状況

昭和62年に事業所を建設し17年が経過しており、現在1,400頭を飼育しているとのことである。3年前にPRSという病気の発生で休止していた間もあったが、現在は良好に推移している。

環境対策等について

環境対策等については、建設当時、町と公害防止協定書を締結され、その中で悪臭防止対策や水質汚濁防止等について協定を交わされている。

事業所の取り組みとして、臭気の発生源は豚舎と堆肥舎が一番の原

委員会連合調査



シムコ鶴田事業所長より、環境対策業務等について説明を受ける各委員

因とされることから、頭数に見合う水処理施設の整備や、施設内に消臭剤の散布等をされている。

その他にも、悪臭防止対策として、豚舎毎に脱臭装置を設置するよう考えられているが、莫大な経費が必要であることから、今後先進地での研修を行いながら、徐々に改善を図って行きたいとのことである。

また、水質汚濁防止対策として、事業所、川内川漁業組合及び行政立会いのもとで、月1回中間川下流で水質検査を

実施しているとのことである。

まとめ
事業所におかれても、町との公害防止協定書等に基づき各種の施策を講じられ環境対策等について努力されている。

しかし、今後益々環境面における地域の要望や関心も高いことから、少しでも住民の不快感を取り除くよう、より一層の対策を講じられ、環境保全に努められるよう要望する。

後編集

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、オリンピックのメダルラッシュで日本中が湧き上がった反面、自然災害の怖さを嫌というほど目にした年でもありました。

さて、3町合併も秒読みの段階となり、鶴田町議会も残された短い任期ですが、一同力を合わせて責任を全うしていきたいと思っております。

ここに議会だよりをお届けいたします。ご意見等ありましたら議会事務局までお知らせください。

平成17年1月

発行責任者 東 哲雄

編集委員長 宮之脇金次郎

副委員長 四位 芳彦

編集委員 高 嶺実樹雄

編集委員 川口 憲男

編集委員 下大迫幸太郎

編集委員 中尾 正男